

2019.3.9 Sat. — 3.24 Sun.

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

11:00-19:00 | 月曜休館 | 入場無料

かいじゆう

とつたのり

出原
司

IZUHARA
Tsukasa

お問合せ先：
京都市立芸術大学 事務局 連携推進課（事業推進担当）
Phone: 075-334-2204（平日8:30-17:15）

京都市立芸術大学 退任記念展

協力：
開田
裕治氏

写真：武田照行

かいじゅう

2019.3.9 Sat. — 3.24 Sun.

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

出原司

IZUHARA Tsukasa

退任記念展では僕の作品だけではなく、在任中、学生達と一緒に制作した同僚の先生方のリトグラフや、この展示のために久しぶりの呼びかけに答えてくれたゲストの怪獣絵師、開田裕治氏のイラストレーションを展示する予定です。

僕は自らの作品をオーバーサイズプリントと呼称しています。版画ではあるけれど目の前にそびえ立つ偉物とでもいうようなものを目指して制作してきました。たぶん子供の頃、地蔵盆の野外上映会で見たくゴジラなど、のちに怪獣映画と言われる見世物の記憶が元になっていると思います。

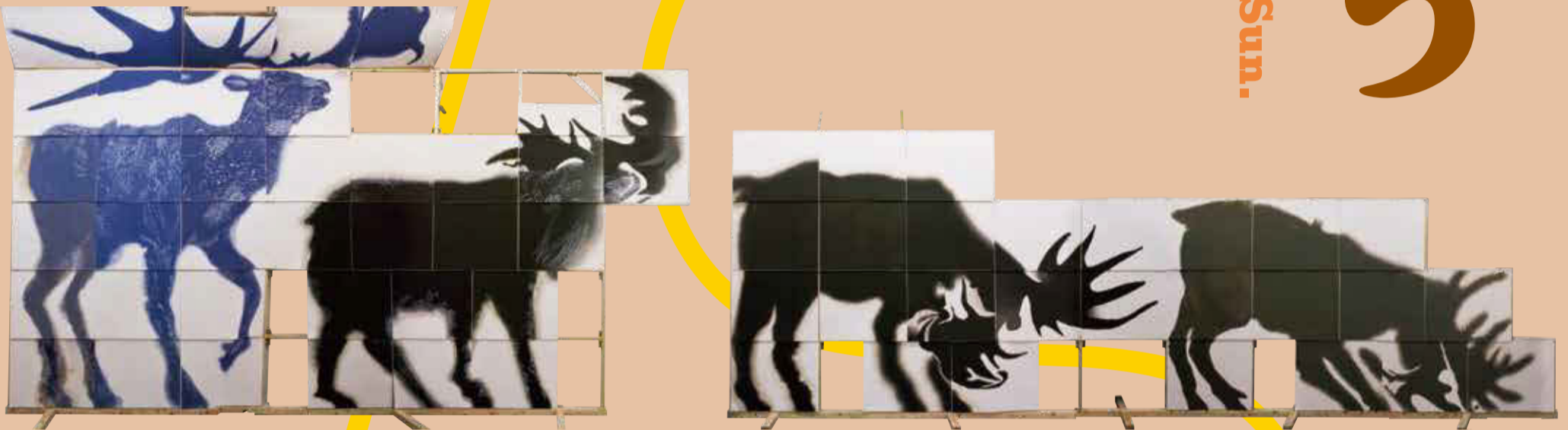
開田氏は僕にとって（本人は迷惑かもしれないかもしれないけれど）実はこんな風に生きたかったのかもしれないとずっと思ってきた、もう一人の自分のような存在です。今回彼は僕の見なかったかいじゅう（怪獣）を見せてくれるのですが、その作品はどんなに示唆に富んでいても徹底的に空想の世界です。向かい合わせになる僕の作品は版画なので何重もの写しという手順を踏んでいます。直接的という言葉の対極にあるもので真贋が定めにくいものと言えます。だからこそモチーフが、かいじゅう（海獣）であることが重要なのです。その生物が背負われた僕たち人間の問題を、リアルサイズで表現しようとする画面からはみ出してしまう版画の宿命のようなもどかしさを通して、かえって「リアル」を際立たせると考えているからです。

かなり前から望んでいた二人三脚を実現できそうに楽しみでもありますが、同時に「vs」という前置詞が間にあるからには、一対一の対決物でもあるのでとても緊張しています。

出原司

出原司プロフィール

1953年京都生まれ。1979年京都市立芸術大学西洋画科専攻科修了。1996年より京都市立芸術大学美術学部常勤教員。2005年より同美術学部教授。主な展覧会に「MAXI GRAPHICA」（京都市美術館ほか、1988-）、「和歌山版画ビエンナーレ」（和歌山県立近代美術館、1989、1993）、「版から／版へ」（京都市美術館、1989）、「アートナウ」（兵庫県立近代美術館、1994）、「現代の版画」（渋谷区立松涛美術館、1994）、「現代版画・21人の方向—現代版画入門—」（国立国際美術館、1999）、「釜山ビエンナーレ2010『Now! Asian Artists』」（釜山、韓国、2010）、「個展（番画廊、2011）、「HANGA 展—日本とベルギーの版画の今日」（セント・ニコラス市立美術館、ベルギー、2014）など



出原さんは、乳児が物をしゃぶることで物を一つひとつ確認するのとおなじように、世界をなぞりたいと希っている。世界を絵画のように小さく枠どるのではなく、実物大の世界に向きあい、その大きさにときめきたいと思っている。でもその世界も、そのなかの一つひとつのモノや生きもの、わたしたちはじつは複製、つまり実物を縮めた転写態で知っているだけ。鯨だって、実物を見た人がいったいどれだけのいるのか。

世界を「なぞる」とは、それを「うつす」ということ。実物を版で像として「写す」ことは、何かをそっくりそのまま他の場所に現れさせること、つまり「移す」ことでもあるのだ。

だがここで、「写す」ことから、実在とその投影、あるいは原物とその写しという前提を外せばどうなるか。うつろう「像」こそがモノとしての存在よりも先だということにならないか。どんな世界も「実在」ではなく「版」だということにならないか。そうだとすれば、面影や幻、空耳など、ふとよぎる、夢か現かおぼつかないものこそいっそうリアルに思えてくる。ということは、今回、相棒として招かれた開田裕治さんの《怪獣アート》もきっと、そうあったかもしれない出原さんの写し鏡なのだろう。

四年前の四月、わたしが京都市立芸術大学に着任した翌日に、キャンパスをぶらり巡るなか最初にのぞいたのが、出原さんの実習室だった。床はびかびかに磨かれ、備品や道具はみごとなまでに整然と並べられていた。「これも版画？」とギョッとさせられる自由奔放な作風と、その制作場所の整頓との大きな落差に、この人の仕事は信頼できると確信したのだった。

京都市立芸術大学学長 鷲田清一

関連イベント

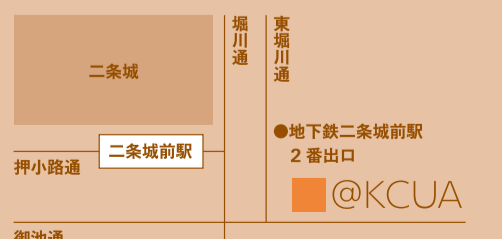
3月9日(土)
14時〜
16時〜
アーティストトーク
レセプション
会場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA



開田裕治氏
《彼方より》

かいじゅう 開田裕治氏 (イラストレーター)

プロフィール：
1953年兵庫県生まれ。京都市立芸術大学を卒業後、イラストレーターとしてデビュー。「怪獣絵師」という異名を持ち、特撮ファンはもちろん、幅広い層から支持を得ている。第24回ゆうばり国際ファンタスティック映画祭ファンタランド大賞市民賞受賞など、受賞歴多数。スティーブンス・シルバーク監督作品『レディ・プレイヤー 1』国内版ポスターを制作する他、作品展、イベントなどの活動多数。日本SF作家クラブ会員。



会場アクセス：〒604-0052 京都市中京区押小路町 238-1
地下鉄：「二条城前」駅（2番出口）南東へ徒歩約3分
バス：「堀川御池」バス停下車すぐ
http://gallery.kcuu.ac.jp
Phone: 075-253-1509

かいじゅう